

入賞作品紹介

⑥

中学生の部親子賞 優秀賞

私と新聞

平田 村やまと
小中1年 大和 巧実君

「新聞を読みなさい。」これは母の口癖です。もとも僕は、新聞や本などの文章を読むことは好きではありませんでした。だから母に「新聞を読みなさい」「読書をしなさい」など、しつこく言われると腹が立ってつい「うるさいな」「黙ってよ」と反抗的になってしまいました。なぜ、新聞を読まなければいけないのか。なぜ、読書をしな

なければならないのか。新聞を読む必要があるのか。疑問に思っていました。そんな僕を変えたのは、東日本大震災がおきからでした。余震に耐える中、情報を得る方法はテレビか新聞しかありませんでした。僕は仕方なく新聞を読んでみました。すると今まで分かっていなかった情報をたくさん得ることができました。あんなに新聞を読むことが嫌いだった自分が初めて新聞にたいしての関心を持つことができました。この時以来少しでも新聞を読むように努力をするようになりました。

僕は新聞を読むようになって良かったと思いません。なぜなら、「嬉しい」「悲しい」「楽しい」「さびしい」「悔しい」などの多くの感情をもつことができるからです。それは、今の生活のなか、これらの生活のなかでも役に立っていくと思えます。これから成長していくにつれて受験、進学、就

職、結婚など色々な経験をし、子供を持つかもしれない。その時は新聞を読みます。

私と新聞 息子に伝えたい

母 大和 真樹子さん

「新聞読むように」「読書するように」。中学時代、先生が度々言っていた。新聞は、テレビ欄を見るくらいだった。テレビやラジオが好きだった。そのうえ、社会が苦手な。その私が今、息子にうるさく言っています。

「新聞読みな」「本をたくさん読みな」と。中学卒業から二十余年。労働、納税、結婚、妊娠、出産、育児をしていく中で、私の興味は変わっていった。政治が気になる。地域の話が気になる。色々な情報が欲しい。二十歳頃には読書

好きになった。好きなアーティストがお薦めする本を読んでいるうちに、本の素晴らしさが分かった。まだ出会っていない本や、新刊の情報が気になる。今は、毎朝新聞が楽しみだ。恥ずかしいようだが、記事を読みながら一人で喋っている時もある。育児放棄で幼児が亡くなった記事は、嗚咽が出るくらい泣いた。昨年は、息子のスポーツ少年団の卒団式が、地元紙二社にとりあげられた。写真も掲載され、一社にひきのぼしを依頼した。大切な思い出を残すことができた。新聞には色々なものが詰まっている。驚き、喜び、怒り、悲しみ、笑い、感動……。特に楽しみなのは、本を紹介するコーナーだ。一昨年、古本屋で気になって購入し、ようやく読み終えようとしていた本が、昨年大変売れていると知ったのも新聞だった。

中学時代、先生が言っていた事は、今息子も言われていることだろう。当時から新聞の良さに気付いていれば、もっとたくさんを知る事ができただろう。私はこれから、新聞の良さを伝えて、いつか息子と記事について議論してみたい。

読む知る学ぶ E! 新聞